

## 「基本計画の進捗状況の把握・分析」の今年度の進め方等

評価専門調査会第 147 回での議論を踏まえ、令和 5 年度は、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画中の 11 の中目標のうち、「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」及び「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用」について、進捗状況を把握する。

これら 2 つの中目標に関し、指標やロジックチャート等を用いて現状での研究開発の進捗を捉えつつ、指標に用いるデータの更新頻度の問題等により、リアルタイムでの状況把握に限界があることから、担当府省等から進捗状況をヒアリングすることによりリアルタイム性を補完し、評価専門調査会においてさらなる深掘りの分析を行うこととする。

なお、「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張」については、関連の施策の進捗状況を踏まえ、次年度以降、適切なタイミングで進捗状況を把握していくこととする。

### 【主な意見】

#### ■「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」

- ・ 世界に伍する点を確認し、スタートアップエコシステムの構築、社会実装へのつながりを確認することが重要。
- ・ 技術をビジネスに結び付け国際的な競争で成功するには、ビジネスモデルの検討等の議論はあるが、ビジネスモデルを構築できる人材が十分に育っているかについても注視する必要。
- ・ 本テーマに関しては、資金循環も検討してはどうか。
- ・ イノベーション・エコシステムの状況は刻々変化しており、またこの変化のスピードも速くなってきている状況下においては、省庁間の連携が極めて重要であるため、省庁間の連携の具合を踏まえた評価が重要。
- ・ スタートアップエコシステム拠点都市に関して現状を確認すべ

き。

■「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用」

- ・ S I Pの評価においては、マッチングファンド（出口の産業界との資金の関係をどうするか）の観点で議論できないか。
- ・ S I Pはある程度継続されてきたので、第1期、第2期による経済的、社会的効果（費用対効果）、産業社会構造、統治構造、規制への影響を考えるのは重要な視点。
- ・ 第6期はイノベーションと総合知が大きなポイントと考える。S I Pやムーンショットにおいて、総合知の活用が促進されていたと認識しているが、現状を確認したい。総合知の観点で、どのような実現とアウトプットを期待しているか、議論すべき。

■「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張」

- ・ 時期を踏まえ、現在の政策の方向性を公開の場所で議論するのはいいのかもしれない。
- ・ 透明性を高める点でも、早めにメタ評価をやった方がいい。
- ・ 大学の選定過程ではあるものの、今の段階でも議論の価値があると考えます。
- ・ 選定過程においては、候補が決まった段階なので、次回以降の評価が適切と考える。
- ・ 指標の設定や、成功状態の明確な定義を現段階で実施すべき。文部科学省で実施するのであれば、評価専門調査会からは、指標の設定等を要求してはどうか。